名城大学で就任会見に臨んだ森和俊教授＝４月 14 日、筆者撮影

名城大に生物学の第一人者、森和俊教授が就任 ノーベル賞級の研究発展に期待

名城大学薬学部（名古屋市天白区）に４月、細胞生物学の第一人者である森和俊教授(67) が就任した。細胞内の品質管理の働きをする「小胞体ストレス応答」の仕組みを解明し、2014 年にノーベル賞の登竜門とされるアルバート・ラスカー基礎医学研究賞を受賞。京都大学から研究環境を移し、名古屋を拠点に「これからも研究・教育を継続して発展させたい」と意気込みを示している。

◆ 母校の京大から移転、「熱心なお誘いいただいた」◆

森教授は 1958 年、岡山県倉敷市生まれ。77 年に京都大工学部入学後、薬学部に転じ、81 年に同学部を卒業。京大大学院で修士課程を修了後、岐阜薬科大助手、米テキサス大博士研究員などを経て 1999 年から再び京大に籍を置き、理学研究科教授、高等研究院特別教授などを務めていた。

そうした中で 2024 年、京大大学院薬学研究科を修了した教員がいた縁もあって名城大薬学部の特任教授に就任。学生への特別講義のほか、若手研究者向けのワークショップや一般市民向けの公開講座にも登壇。さらに名城大の教育・研究力の向上のため、薬学部教授への就任を打診されていたという。

４月 14 日に名城大天白キャンパス内で就任会見を開いた森教授は「このたび、熱心にお誘いをいただき、４月からこちらでお世話になることになりました」と挨拶。名城大について「非常にきれいな、大きな大学だなというのが第一印象。坂がちょっときついなとは思いますけど」と笑わせた。学生数は多いが、これまでの講義では「非常に熱心に聴いてくれるし、質問もたくさんしてくれる。元気な学生がいるなという印象」と話す。